

平成30年度 長野県農業大学校 評価(検討)表

評価 A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおりできた C: 目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価	H30 評価	
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	・学生の目的意識や基礎学力により、習熟度に差は見られるものの、講義や実習による専門知識、技術の習得並びに、寮生活やプロジェクト学習により協調性、社会性、自主性を磨くなど、目標に沿った人材育成が図られた。 ・農大改革5年目となり、実践経営者コースは卒業する4期生全員が就農することとなった。農業経営コースは学習意欲や就業意欲の向上が見られ、全ての進路が内定し、就業率も35%を上回っている。	B	
	今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	
	農業大学校改革の着実な推進による長野県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進する。	○3観点の導入やアンケート等により、授業の充実に取り組んだ。 ○本年度から国際水準GAPの講義を開始した。 ○農業・農村の担い手となる新社会人37人を送り出す。	・引き続き授業内容充実とそのPRに努める。	B
	1 授業内容の充実を図り、農業実践教育を通じて自立した社会人を養成する。	○職員の連携により、コース運営は概ね円滑にできた。 ●求める人材の確保が難しい。 定員10名一応募者7名一合格者3名 ○コースの改善点、課題、今後の方向性について、協議を始めカリキュラムの改善を進めた。	・コースのPR強化、効果的な募集活動を実施する。 ・引き続き応募者のニーズをとらえた、実践経営者コースのあり方を検討する。	B
	2 実践経営者コースの運営を円滑に推進し、平成31年度入学者の確保に努める。また今後の実践経営者コースのあり方を検討する。	○農業法人説明会や就業支援プログラムによるきめ細かな就業支援等により、就業へ結び付いた。 農業経営コース就業率36.4%(前年31.6%)	・引き続き効果的な就業支援に努める。	B
3 就業支援プログラムによる支援、法人説明会の開催などにより、学生の就業率向上に努める。	○ホームページでの発信やテレビ・新聞で放送されるなど、情報発信に努めた。	・引き続き広く魅力発信に努める。	B	
4 農大の魅力情報の発信に努める。				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	H30 評価																				
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ パワーポイントを用いた授業が行いやすい環境整備ができたか。 ○ 現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業の視点から授業の改善ができたか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。	○授業実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">充足率 (%)</th> </tr> <tr> <th>H30</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3観点による授業</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>実物を用いた授業</td> <td>71</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントを用いた授業</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>中間テストを用いた授業</td> <td>35</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>その他の取組</td> <td>45</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>	項目	充足率 (%)		H30	H29	3観点による授業	100	100	実物を用いた授業	71	59	パワーポイントを用いた授業	55	55	中間テストを用いた授業	35	14	その他の取組	45	71	・引き続き分かりやすい授業が行えるよう手法や環境整備を検討していく。また、学生アンケートを授業充実に活かす。 ・新しい内容の授業導入を継続的に検討する。	B
			項目	充足率 (%)																						
				H30	H29																					
			3観点による授業	100	100																					
			実物を用いた授業	71	59																					
			パワーポイントを用いた授業	55	55																					
			中間テストを用いた授業	35	14																					
			その他の取組	45	71																					
			○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、より良い学校づくりの参考にしたか。	○問題点や要望が把握しやすいよう、学生への声かけを実施した。 ○年度当初の進路等に関する面談、あるいは自治会の活動や専攻毎の面談を通じて、課題、意見及び要望の把握に努めた。 ○学生の要望により教室の音響を整備する等、より良い学校づくりの参考とした。 ○学生の生活の変調に気がつきすぐに対処できるよう、スクールカウンセラー等による教員研修を行った。	・引き続き、面談、自治会役員との話し合いあるいは各専攻担任の見守り等により要望の把握に努め、より良い学校づくりのための環境整備に努める。	B																				
			○ 1年生によるプロジェクト見学は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を取入れるとともに、労働時間の比較など一層の向上が図られたか。 ○ 1年生は全ての専攻でミニプロジェクトが実施されたか。 ○ プロジェクト生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。	○果樹、作物等で事前指導を行い、7月の各専攻毎のプロジェクト見学では質疑を活発に行なった。 ○経済性の評価は行なったが労働時間等の比較まで行なったのは一部であった。 ○作物・果樹は共通で、野菜は個別でミニプロジェクトを実施した。 ●花きは播種から収穫までの一連の作業は実施したが、品目が多く調査研究を行う時間的余裕がなかった。 ○プロジェクト生産物を直接販売する機会として、うだいの星(6回)と農大市を設定し、対面販売を実施できた。また、プロジェクト生産物の販売のための計量、袋詰め等は、学生自身が行うよう指導できた。	・プロジェクト見学前に、事前学習を行い、質問項目の整理を行う。 ・経済性は単なる収益比較でなく、収入や費用の積算を行えるようにする。 ・1年は全ての専攻でミニプロジェクトを実施し、2年のプロジェクトにむけ準備する。 ・販売体験、繁忙期の体験やマーケティング手法の習得のため、直接販売の機会であるうだいの星と農大祭を引き続き実施する。	B																				
○ 国際水準GAPの知識習得や、農業経営におけるGAP(農業生産工程管理)について講義を実施したか。	○1、2年生とも講義を実施し、国際水準GAPの知識習得を図った。また、2年生は演習を実施し、農業生産工程管理の実践について学習した。	・引き続き授業を計画するとともに効率的に実施する。	A																							
○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、合格率目標を定め、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、授業を改善できたか。 ○ 受験に当り、学生への事前学習を実施したか。	○HR等の機会に各種資格・検定受験を奨励し、合格率向上へ向け、事前学習や補習を行った。 ○簿記検定では、補習を行った結果、8名が再度受験した。 ●本校学生の合格率は、毒物劇物取扱者、農業簿記検定3級、日本農業技術検定2級の合格率が昨年を下回った。	・必要性を意識づけるとともに、普段の実習の中で理解を深め、学習意欲につながる指導を行う。	C																							
○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就業支援が一体的に実施できたか。 ○ 1年次における各論実習の充実、目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。 ○ 専門的実践的講義、実習により、自ら農業経営者に求められる4つの力を身につけることができたか。 ○ 2年次における模擬経営の充実を図り、就業後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。	○担当教授と就業農家が連携をとり、講義・実習や就業時の品目検討、農地確保活動などの就業支援を一体的に実施した。 ○1年生は希望科目毎に各論実習で作業の基礎を確認したうえで、目的を明確にした農業経営体験実習ができた。 ○各自が必要な授業を選択したり、先進農家への視察等を行い、4つの力の習得を進めた。 ○2年生は農業経営実習を通じて、自己の技術や経営の課題を把握するとともに、就業条件が明確になる中で就業後の対応策が明らかになりつつある。	・引き続き、コース運営と就業支援を一体的に実施する。 ・農業経営実習地の遠近に関わらず、適切な指導助言を行う。	B																							
○ 実践経営者コースの課題を踏まえ、コースのあり方の検討を行ったか。	○在校生及び卒業生へのアンケート調査、アドバイザーボードと在校生の意見交換会その他、アドバイザーボードでの検討を2回行うなど、入口と中身を中心にあり方について検討を進めた。	・引き続き、内部検討やアドバイザーボードとの検討を進める。	B																							
○ 十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を確保できたか。 ○ 新植ブドウ園の計画的な管理はできたか。 ○ 水田の借り入れ等による優良水田の確保はできたか。 ○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。	○実践経営者、農業経営両コースの事前調整により、十分なほ場が確保できた。 ○平成29年度平圃を整備してブドウの苗木を定植し、敷きわら、かん水、草刈り等適切な管理を行った。干ばつの影響により若干生育が悪い状況である。 ○水田2筆を新規に借り入れ、十分なプロジェクトほ場を確保できた。 ○模擬経営毎に、適正なほ場・施設の確保ができた。	・引き続き実践経営者コースと農業経営コースの調整を早めに行い、適正なほ場の確保に努める。 ・ブドウの新梢伸長が劣ったので、適切な切り戻しを行い新梢の延長を図る。 ・学生の意向を早めに把握し、模擬経営用ほ場の確保を図る。	A																							

	農場利用で学習効果をも高める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収穫時期を踏まえた作付けにより、年間通じたほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、基礎的技術の習得と併せて販売を目的とした作付けができたか。 ○ 1年生は、必要実習ができたか。また、現地体験実習前に、更なる基礎的知識、技術が理解できたか。 ○ 特別教授の弾力的な業務分担等により、各専攻とも適期には場管理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農場等の作付け計画を作成・共有し、年間を通じたほ場の有効活用を行った。 ○ 実習において基礎的技術の習得するとともに、「のうたい屋」農大市での販売を前提にした作付けを行った。 ○ 現地体験実習前に事前実習(2コマ×4回)を新たに設定し、専攻ごとの予備実習と刈払い機の技術習得実習を実施した。 ○ 各専攻毎の繁忙期には、特別教授を弾力的に運用して適期作業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き農場の有効活用、実習の適期実施に努める。 ・引き続き、ほ場等管理に特別教授を弾力的に運用して対応する。 	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就職を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生は11月末日を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は12月末日を目途に全員の就職及び就職先等決定するよう指導できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生は4月に個別面談、10月に進路面談、11月に三者面談を実施し、進路指導を行った。また、具体的な就活方法の講義を行い進路決定に結び付けることができた。 ○ 2年生は4月に個別面談を実施した後、個別に就活を支援した。内定率は100%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き早期の進路決定に向けて支援していく。 ・進路を早めに決めることにより、学習意欲の向上に努める。 	B
		〔実践経営者コース〕 ○ 就職支援プログラムに基づき、就職形態に応じた計画的、きめ細かな個別就職支援ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生3人は、個別支援により就職地及び経営品目もほぼ決定し、関係機関との調整を進めている。 ○ 2年生4人のうち3人は、農地確保の目的が立ち、住居も確定するなど就職への具体的な準備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係機関と連携して学生個々の状況に応じた対応を行う。 	B
		〔農業経営コース〕 ○ 就職への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生は、就職までの進路や経営指標の使い方、各種制度及び先進農家の講義(3回)や現地実習(1回)を充実し、就職への理解や意識を高めた。 ○ 昨年より一カ月早く法人等合同説明会を開催した。当校学生の他、八ヶ岳中央農業実践大学校と農業高校の学生、生徒も参加させることができ、広く就職への動機づけができた(当校法人就職は7名)。 ○ 2年生の独立自営希望2名については、就職支援プログラムに基づく個別、計画的支援ができたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や話を聞く機会を取り入れ、就職意識の向上が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き農業経営演習で就職意欲を高めるような授業を行うとともに、就職を希望する者に対して就職支援プログラムに基づく支援を行う。 ・法人等合同説明会は、開催時期、参加法人や運営について検証を行い、次年度開催の参考とする。 	B
		○ インターンシップや法人等合同説明会等を通じ円滑な就職への取組みができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生の独立自営希望2名については、就職支援プログラムに基づく個別、計画的支援ができたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や話を聞く機会を取り入れ、就職意識の向上が図られたか。 		
教育活動	就職・進学情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学内掲示板、ホームルームなどを活用した求人情報の提供がなされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示板、情報コーナー、ホームルームを活用して情報提供に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えやすい、見やすい提供方法を検討する。 	B
	社会的規範意識を高め、基本的生活習慣の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 ○ 学年担当者会議や学生部の打ち合わせが定期的に行われ、教授間の情報共有や役割分担、全員で指導する体制ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月に交通安全・防犯研修会、5月に健康講座、8月に交通安全講座等を開催し、命の尊さや社会モラル等の啓発学習を行った。 ○ 月1回の自治会執行委員会の他、寮内の巡回を週1回行い、学生の自主的な寮運営等に役立った。 ○ 学年担当者会議の定期開催ができなかったものの、各教授との情報共有に努めながら学生指導にあたることができた。また、学生担当者会議は教務会議の中で行い、職員の情報共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体が共通した認識を持って学生の指導に当たるよう毎週の朝会で徹底する。 ・学年担当者会議等の定期開催に努めて情報共有を図るとともに、必要に応じて役割分担と指導体制を整える。 	B
	自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮生活を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 全ての自治会専門部が定期的に開催され、年間事業計画による自主活動が強化されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生主催の1年生歓迎会の開催や自治会への1年生役員の同席など、学年間の交流を図ることができた。 ○ 寮生活、クラブ活動や体育大会を通して、各コース間および学年間の交流が行えた。 ○ 自治会役員は、当初特定の意見に流されることはあったが、それぞれの役割を自覚して組織的な運営を行っており、各専門部ごと執行委員会の前後に定期的に部会を開催するなど、自主的な活動を行っている。 ●一部専門部で執行委員会を欠席するなど、消極的な者がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動を通じて自律、協調の気持ちを育むよう誘導する。 ・学校行事を通じて、学生間の交流を図る。 ・事業計画に沿った専門部活動を強化するため、定期的な部会開催を行うよう働きかける。 	B
	農業機械や施設機器の適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水田の漏水、排水対策は実施されたか。 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備は充分確保されているか。 ○ 農業関連企業との連携や職員研修により、導入した機械と設備の効率的利用ができたか。 ○ 農業機械、施設および機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 ○ 実習棟、機械庫等は、定期整備日の設定などにより整理整頓がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規借り入れた水田を含め、畦塗や丁寧な代掻きを行い、漏水対策に努めた。 ○ 刈払い機は定期的な更新を行った。 ●管理機などの機械や一部施設が更新できていない、一部老朽化した機器の故障により、作業の中断、遅延等が発生し、授業計画に影響を及ぼした。 ○ 農業機械メーカーとの連携授業により、最新の機械による授業が実施できた。また、農機具メーカーとの連携によりプロジェクト研究の充実を図った(職員研修については3月に実施)。 ○ 農業機械の点検を行うとともに、修理は優先度により予算の範囲内で順次整備した。また、点検・修理車両には修理中の掲示をするとともに、口頭で周知した。 ○ 使用簿はすべての機械の使用状況が記入できるように設置し、記入を促した。 ○ 廃棄する機械を確定し廃棄を行った。 ○ 共通で利用する農場総合管理棟と機械庫は定期的に清掃した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な機械利用により、水田の適正な水管理に努める。 ・管理機や施設の更新を図る。 ・機械メーカーとの連携により、農業機械の適正利用及び効率的な利用に努める。 ・引き続き、機械の丁寧な取り扱いや使用後の点検、管理の実施に努める。 ・引き続き機械等の廃棄や定期的な清掃を行うとともに、計画的な機械の更新に努める。 	B
学校運営	学校用地や施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農場以外の学校用地の草刈りや道路穴埋めは職員が適切に行った。 ●夏場の雑草繁茂の対応や施設等の修理修繕に予算が不足してきている。 ○ 毎月末に教室の定期清掃日を設定し、学生が美化に努めた。また学生寮は学生自治会による清掃美化を行なった。 ○ 本館1階は職員による定期的な清掃を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りについては時差勤務を使って朝の涼しい時間帯に実施する。 ・草管理の実施方法を工夫するとともに予算要求していく。 ・引き続き定期清掃を行い美化に努める。 	B
	農大の魅力発信と学生確保の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ オープンキャンパス、サンデー見学会を行い、農業大学校への関心を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内、募集チラシを県内全高校及び希望者(2月14日現在132件)に配布するとともに、説明会や研修会等の資料として配布した。 ○ 8月にオープンキャンパスを開催し、学生49名の参加があった。サンデー見学会は3月19日現在24組の利用者があった。 ●平成29年度と同程度の募集活動を行ったが、受験者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定したことは実施したが、受験者が減ったため新たな改善策を検討していく。 	B
	学生募集のPRを更に充実する	〔実践経営者コース〕 ○ 就職に向けた相談会及びコース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等により、効果的な募集活動ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県外相談会9回、県内相談会2回参加するとともに、説明会及び体験授業をそれぞれ2回計画した。また、農業高校へは担当者会議、校長との連携会議及び学校訪問により働きかけを行った。 ○ 相談会等機会をとらえて、市町村及びJAと情報交換を図り、農業大学校一地域という流れを進めた。 ○ 募集チラシを作成し、関係機関及び団体、農業者等へ配布し、周知した。 ○ ホームページのブログでの情報発信、農業関係雑誌、新聞及びインターネットを活用したディスプレイアドネットワーク配信等PRに努めた。 ●3回入試を行った。7人の応募があり3人合格であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談会での積極的な働きかけを行う。 ・市町村やJAといった関係機関・団体との連携を強化する。 ・様々な媒体を活用した情報発信を行う。 	C
	ホームページの充実を図る	〔農業経営コース〕 ○ 広く県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭へ情報提供を行ったか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の高校75校を訪問し、進路担当教諭に情報提供を行った。 ●受験者が期待した数とはならなかった。 ○ 農大と農業高校との連携会議を開催し、8月8、9日に高校生の体験入学を実施した。 ○ 農業高校6校(9回)と普通高校2校で進路ガイダンスを行い、生徒及び進路指導教諭へ情報提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業高校からの推薦入試出願者の減少について、連携会議等を通じて高校生の動向・傾向等の情報入手を行う。 ・普通高校学生の当校志願の可能性を探る必要がある。 ・入学者の定員確保に向け引き続き情報提供を行っていく。 	B
	○ 専任サイトの各専攻のブログは、具体的目標を定めて更新できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専用サイトのブログでは、更新頻度にむらがあるが校内行事や授業など頻りに情報提供を行った。 ○ 入試情報(募集期間、実施状況など)を逐次更新し、最新の情報を提供できた。 ○ 5月、11月に広報委員会を実施し、年間の活動を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各々に情報発信を行っていく。 ・「見つけなくても」ホームページになるにはどうしたらよいか検討していく。 ・引き続き、ホームページ、ブログなどで情報発信に努める。 ・定期的な広報委員会の開催を行う。 	B	
	○ 改革を進めている農大の教育内容や就職支援、同窓生の活躍の様子、長野県農業の魅力などを、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。				
	○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。				
	○ 広報委員会は定期的に開催されたか。				

その他	予算執行の適正化を図る	○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	○農場は専攻別に、管理運営費は費目別に予算執行状況を整理した上で、毎月、全職員に情報提供し、計画的な予算執行に努めた。	・引き続き効率的な予算執行に努める。	B
-----	-------------	---	---	--------------------	---